

# 科目区分：共通基礎科目

授業科目名	教養特別講義					学期	曜日	校時
英語名	Special lecture for freshman							
担当教官名	高橋 眞司 後藤 恵之輔 山口 恭弘	単位数	2単位	必修 選択	必修	前期	水曜日	3校時
授業のねらい・内容・方法								
<p>2002年度から導入されたこの教養特別講義は、長崎・平和・福祉について学びます。それぞれのキーワードは、地域と歴史、戦争と平和、人権と共生です。その前後に斎藤寛学長と片峰副学長、そして中間に名誉教授の特別講義があります。一つの講義でこれだけ広がりのあるテーマを追求し、豊かな講師陣を手配した講義は他にそう多くありません。この講義から長崎大学の四年間で学ぶそれぞれのテーマについて幅広い関心を耕し、学問の厳しさと面白さ(その片鱗!)を知るように、心がけてください。ここから何を汲みとるかは諸君一人ひとりにかかっています。</p> <p>世界によく知られた由緒ある街・長崎で、しかも戦後歴史の重大な局面にあたって、ユニークな伝統を誇る長崎大学で学ぶ諸君の真剣なまなざしを期待しています。</p>								
テキスト、教材等								
<p>長崎：特に用いない。釣民講座（長崎新聞）や統計資料などは適宜プリントとして配付する。          平和：『長崎にあって哲学する一核時代の死と生』北樹出版，1994年          『続・長崎にあって哲学する一原爆死から平和責任へ』北樹出版，2004年          福祉・ボランティア：テキストは用いない。適宜プリント資料を配付する。</p>								
対象学生	成績評価の方法				教官研究室			
Eh・T24A	講義への主体的参加、授業内外のレポートを総合的に勘案して評価する。							
授業計画								
授業計画								
第1回	4月14日	特別講演	齋藤 寛	(学長)				
第2回	4月21日	長崎	山口 恭弘	(水産)				
第3回	4月28日	長崎	山口 恭弘	(水産)				
第4回	5月12日	長崎	山口 恭弘	(水産)				
第5回	5月19日	特別講演	山下 正喜	(名誉教授)				
第6回	5月26日	特別講演	古川 淳	(名誉教授)				
第7回	6月2日	福祉・ボランティア	後藤恵之輔	(生産研)				
第8回	6月9日	福祉・ボランティア	後藤恵之輔	(生産研)				
第9回	6月16日	福祉・ボランティア	後藤恵之輔	(生産研)				
第10回	6月23日	特別講演	田北 徹	(名誉教授)				
第11回	6月30日	特別講演	浦 晟	(名誉教授)				
第12回	7月7日	平和	高橋 眞司	(教育)				
第13回	7月14日	平和	高橋 眞司	(教育)				
第14回	7月21日	平和	高橋 眞司	(教育)				
第15回	7月28日	特別講演	片峰 茂	(副学長)				
授業内容								
1. 長崎								
<p>漁業という生態系高度利用技術を通じてヒトと自然との共存を産業という観点も交えて考える。          漁の科学：ヒトと生態系とのインターフェイス          第1回 道具の発達（ヒトの生存戦略）          第2回 高度生態系利用技術としての漁具漁法          第3回 上記を学ぶ場としての長崎県の漁業の現状の把握方法</p> <p>成績は出席とレポートにより行うが、漁業者へのインタビューや実際の漁業体験など、活きた題材に基づく記載を望む。</p>								

漁業は現存する産業の中でも最も古く、生態系との共存による。人類はネコほどの獲物獲得のための敏捷性や鋭利な爪や牙を持たない。だが数百メートルの深海からも厳寒氷結する南氷洋からも数センチのエビ類から巨大なクジラまでを食糧として利用する術を獲得した。ただし、漁業は他の産業と異なり自然の営みすなわち生態系との共存なくして持続的な生産が不可能である。その様な観点から漁業を生態系とのインターフェイスと考えることで身近に共存手段を学ぶことができる。しかも長崎県は海岸線の総延長およそ4200kmに及び、有明海、大村湾、東海、日本海など多様な海洋形態を有し、全国2位の漁獲生産量を誇る。長崎大学に水産学部が存続する意義がこのような題材の豊富さからも頷けよう。本講義ではこの自然条件や全国にも数少ない水産学部という海洋の総合自然科学の大系の一部からヒトと生態系との共存について考える。

## 2. 平和

- 第1回 広島と長崎について
- 第2回 戦争と平和について
- 第3回 核時代の死と生について

## 3. 福祉・ボランティア

今、我が国は高齢化の時代から超高齢化の時代へと移行しつつあり、また、障害者も増加傾向にある。このような時にあって、街中には多くのバリア（障壁）が存在し、高齢者、障害者等が暮らしやすい街では決していない。バリアフリーの街づくりを求めて、我々は共に何をすれば良いのか、心のあり方、物の作り方、制度のあり方等について学ぶことを本授業の内容とする。

### 第1回

#### 福祉とボランティア

福祉とは、特に社会の構成員に等しくもたらされるべき幸福であり、ボランティアとは、その幸福をもたらす思いやりの心を具現化する言動であると位置付け、福祉及びボランティアのあり方について考える。

#### バリアとバリアフリーの実際（その1）

バリアには、物理的、心理的、情報面、制度面、文化面の5つのバリアがある。「ノーマライゼーション」の思想のもと、これらバリアを除去するにはどうすれば良いか、バリアとバリアフリーの実際を2回に分けて学ぶ。その1では、施設におけるバリア、バリアフリーについて、「ハートビル法」を学んだ後、公園を含む長崎市内の公共施設、観光施設等を対象として知る。

### 第2回 バリアとバリアフリーの実際（その2）

その2では、「交通バリアフリー法」を学ぶと共に、交通のバリア、バリアフリーについてバス、路面電車等の公共交通及び歩道、横断歩道橋等を対象として知り、更には「ユニバーサルデザイン」についても学ぶ。

### 第3回 学内バリアフリー探検

受講生自ら、車いすに乗ったりアイマスクや高齢者疑似体験グッズを身に付けて、大学構内を探検し、建物内や歩道におけるいろいろなバリアの存在を実地に知る。この学内バリアフリー探検を通して、バリア及びバリアフリーに関する自らの「体験」、人への「啓発」及び施設等の建設・維持管理者等への「提言」を考えていく

## 4. 予習・復習に関する指示

主題について講義中に示唆された書籍・映像・資料等を読む・見る・聞く。場所や遺構を歩く。会える人々には可能な限り会って対話を試みる。そして、友だちと話し合うことをすすめたい。

各講義担当者へ質問等がある際には、それぞれ以下の連絡先を利用してください。

高橋 shin-tak@net.nagasaki-u.ac.jp  
 後藤 gotoh@civil.nagasaki-u.ac.jp  
 山口 ayutrap@net.nagasaki-u.ac.jp